

令和8年度東京都立田柄高等学校 学校経営計画

校長 沖山 栄一

I 目指す学校

1 スクール・ミッション

「規律ある学校生活の中で、確かな学力を身に付け、国際社会に生きる広い視野をもった人を育成する」を目指し、国際交流や異文化理解、日本の伝統・文化など国際理解教育を充実させ、多角的なものの方や考え方を身に付け、国際社会に貢献し活躍する生徒を育成します。

2 スクール・ポリシー（令和8年度から更新）

(1) アドミッション・ポリシー [本校が期待する生徒の姿]

多様な生徒が相互に尊重し合いながら学ぶことをめざす学校として、以下のことをよく理解し実践できる生徒の入学を期待する。

- ①コミュニケーションを大切にし、合意形成と協働を大切にできる生徒
- ②社会的マナーを理解し、規則を遵守して自発的・主体的に考え行動できる生徒
- ③学習に真剣に取り組み、自らの進路を切り開いていこうとする生徒
- ④学校行事、委員会活動、部活動、ボランティア活動等に積極的に取り組む生徒

(2) カリキュラム・ポリシー [本校が目指す教育活動]

①生徒の多様性への対応

生徒の多様性への対応と共通性の確保をめざし、少人数・習熟度別の展開授業、多様な学びのスタイルの導入、一人1台端末の活用等により、全ての生徒の学習の充実を図り、進路実現を保障する。

②異文化理解・多文化共生をめざす教育活動

日本人生徒と日本以外の国や地域にルーツをもつ生徒が共に学び成長することをめざして、互いの文化の尊重と理解、コミュニケーション力の向上を図る。

(3) グラデュエーション・ポリシー [本校を卒業する生徒の姿]

ダイバーシティの広がる社会で、人々をつなぐ「懸け橋」となる存在へ

- ①非連続的で予測困難な将来社会を生きる自覚をもち、自己と社会の課題解決をめざして主体的・探究的に学ぶ「自立した学習者」となる
- ②人間と社会の多様性を尊重し、多面的に物事を捉え、他者と協働することで公平で持続可能な社会の創造を担うことができる「市民性（シチズンシップ）」を身に付ける。

II 中期的目標とその達成に向けた方策

1 志願者数が減少する一方で、日本語を母語としない生徒の在籍割合が6割を超え、今後は入学する生徒の多様性も更に拡大することが見込まれる。こうした現況に対して、生徒が多言語・多文化、多様性の大きな学校環境を本校の大きな魅力として感じることができると期待する教育活動を推進し「田柄でしか経験できない高校生活、田柄でこそ身に付く力、田柄だから叶えられる未来」を実現していく。

(1) 入学生の実態を踏まえた「学びの土台」づくり

- ①日本語習得を必要とする生徒を対象とした「日本語入門初期指導」の始動と改善
- ②自ら学びを調整する経験を通して学びに向かう力を育てる「田柄ベーシック」の始動と改善
- ③少人数環境を最大限に生かした学習指導の更なる工夫と生成AI活用

(2) 多言語の「壁」を越えて協働・交流を進める学びと体験の充実

- ①多文化共生という社会課題に取り組む「探究的な学び」を地域と連携して創造
- ②既存の学校行事や部活動を「多文化共生」や「異文化理解」の視点で再構築
- ③ボランティアや地域行事参加、多様な交流を通じた地域社会を生きる当事者意識（市民性）の育成

2 単に「多様性（Diversity）」が大きな学校で「ある」というだけでなく、個に応じた支援によって全ての生徒の学びと成長を保障する「公平性（Equity）」に溢れる学校に「なる」こと、生徒一人一人の違いを前提として全ての生徒を「包摂（Inclusion）」する学校に「なる」ことを目標とし、「誰一人取り残さない学校」をめざして「DEI（多様性・公平性・包摂性）」に溢れた学校を創造していく。

(1) 「形式的な平等」を排し公平性と包摂性のある支援のための仕組みづくり

- ①一人の生徒を多数の視点で理解し支援するために「固定担任制の見直し」等の導入を検討
- ②「生まれながらに怠惰で無気力な生徒はいない」という視点での生徒理解・支援の徹底

- ③ 日本語を母語としない生徒や社会的自立に支援を必要とする生徒への効果的な個別支援
- (2) 社会の変化と生徒の多様性に対応する「柔軟な教育課程」「新たな学び方」等の積極的な検討と導入
 - ① 都が令和7年6月に打ち出した「次世代の学びの基盤プロジェクト～『新たな教育スタイル』の確立に向けて～」の主旨を踏まえた取組の具体化
 - ② 「生徒と教職員の Well-being の実現」という視点で全ての教育活動の在り方を検討
 - ③ 新しい挑戦を歓迎し「田柄高校の価値を豊かにする実践」に組織的に取り組む学校風土の醸成

Ⅲ 今年度の取組目標とその達成に向けた具体的方策

1 推進校・指定校事業を生かした本校教育活動の更新

(1) ダイバーシティ推進校 [新規] 最重点課題

- ① 集中的な日本語初期指導の実施
 - ア 1学年1学期に「日本語入門初期指導」、特別の教育課程による「日本語検定対策指導」を実施
 - イ 46期生の対象生徒全員が日本語検定試験の2回受検を必須とし「N3以上合格」を目指す
 - ウ 新入生ならびに保護者対象の「春季・土曜日本語講座」を田柄生限定版として実施
 - エ 校内で保護者対象の日本語講座を年10回実施。学校の教育活動の理解も支援する取組とする。
 - ② 日本語指導対象外の生徒の学びの充実
 - ア 一人一1台端末に対話型生成AI学習教材「すらら」を導入し、1学年1学期に週6時間「田柄ベーシック」で活用することで、学びの自己調整能力を育成
 - イ 田柄ベーシックの授業では大学生等をTAとして配置し、担当教員とともに生徒の学習を伴走する
 - ③ 多文化共生・異文化理解の体験学習
 - ア 海外交流体験として、11月に在京生の母国訪問（推進校5校合同）、8月に多文化共生先進国としてオーストラリア訪問を実施（田柄単独実施）
 - イ 海外交流体験の成果を文化祭や校内報告会、地域イベント等で発信
 - ウ 他国を学ぶ文化体験、大使館やJICAと連携した講話、ゲストスピーカー講演
 - ④ 校内「日本語サロン（仮称）」を開設し、学習情報や経験の交流場所とする。練馬区の在京外国人支援団体と連携し、地域の支援ネットワークへの接続にも役立てる。
- ##### (2) 日本語指導推進校 [継続]
- ① アセスメントテスト（JCAT）の実施により対象生徒の日本語能力を把握し、学習支援に反映
 - ② 「やさしい日本語」に関する先進的な実践に関する情報収集や校内研修の企画
- ##### (3) スキルアップ推進校 [継続]
- ① グローバルスキル講座及びJETを活用した実用英語技能検定受験支援を行う。
 - ② デジタルスキル講座を活用してICTスキルを習得させ、自立的な学びへの活用を促していく。
- ##### (4) 学力向上研究校 [継続]
- ① 入学時の学力把握により基礎学力の獲得と定着に取り組みせたい生徒を対象として「校内寺子屋」を開設し、外部人材による学習支援を行う。
 - ② 自習室は「学習場所の提供」に留まらず大学生の配置等により学習支援の機能を追加する。

2 田柄の「次の一歩」を目指す取組

(1) 昨年度設置した4つのWGの成果を教育活動に反映させる

- ① 新たな教育のスタイルWGの成果から
 - 研究活動の継続、先進校視察の実施等により得られた知見の共有、研究授業の実施
- ② 魅力ある教育活動WGの成果から
 - 全行事について特色化の観点から再検討、とりわけ「修学旅行の固定化」の検討を促進
- ③ 探究・キャリアWGの成果から
 - 地域課題をテーマとする探究学習、自分に合った学びをデザインする力、自立した学習者の育成
- ④ 学校DEI推進WGの成果から
 - 発達障害等の特別な支援を必要とする生徒に対する特別支援、自立支援の推進

(2) 新たな教育スタイル「田柄モデル」の構築に向けた「在り方検討委員会（仮）」の設置

- ① 学校改革特命担当主幹教諭を置き、目標に沿った検討・研究活動を統括する。
- ② 本校に相応しい卒業に必要な単位数、必修科目や履修認定条件等の在り方
- ③ 全日制普通科の既成観念を排し、大胆な発想をもって教職員の働き方と生徒の学び方に「余白」を生み出す具体策を検討

3 今年度の重点課題と達成したい数値目標 50

ひとつの課題にも複数の要因があり、ひとつの目標にも複数のアプローチがある。学年・分掌・教科の別を超えて、多面的な理解と重層的な取組を行う。

- (1) 学校評価アンケートでの生徒の回答「学校は体罰・暴言のない指導をしている」90%以上
- (2) 学校評価アンケートでの生徒の回答「学校はいじめ防止の取組をしている」90%以上
- (3) 学校評価アンケートでの生徒の回答「自分の意見を学校へ反映できている」80%以上
- (4) 未履修・未修得のある生徒は学年で10%以下
- (5) 中途退学者・転学者数は令和7年度比50%
- (6) 各学年の成績優良生徒30%以上、成績不振生徒20%以下
- (7) 入学者選抜応募倍率が在京入試2.0倍、推薦入試1.5倍、一次募集1.1倍以上
- (8) 年2回実施のJ-CATで日本語力が「向上」と評価できる生徒が50%以上
- (9) 授業評価での「肯定的」ではなく「否定的な回答」の理由を全科目で分析し改善策を立てる。
- (10) 生徒の授業満足度90%以上
- (11) 46期生では日本語学習対象生徒が2学年終了までに日本語検定N3以上全員合格
- (12) 46期生では導入する対話型AI教材を田柄ベーシック以外の5教科の授業でも活用する。
- (13) 田柄ベーシック対象生徒からの海外体験研修に対する参加一次希望者50%以上
- (14) 田柄ベーシックにおいて自身の学習計画達成度70%以上
- (15) 対象となる生徒の春期・土曜日本語講座への申込者50%以上。出席率80%以上
- (16) 保護者対象の日本語講座への参加者10名以上
- (17) 自転車通学生徒のヘルメット着用率・保険加入率100%
- (18) 自転車通学生徒の交通反則通告制度（いわゆる「青切符」）適用者ゼロ
- (19) 特別指導の「指導未完了ケース」ゼロ
- (20) 体育祭にDEIが反映した種目・取組を更に1つ取り入れる。
- (21) 文化祭にDEIが反映した取組を更に3つ取り入れる。
- (22) その他の行事においてもDEIが反映した取組導入に挑戦する。
- (23) 学校ホームページのアクセス数が年間平均で月3500件以上・年間40000件以上
- (24) 学校ホームページ更新毎日1回以上（年間365回以上）
- (25) 学校説明会・学校見学会・個別相談会参加者1000名以上
- (26) 正門外掲示板の掲示を月に2回以上差し替える
- (27) 年間の中途退学者・転学者は前年度比半減
- (28) 年度末中途退学・転学ゼロ
- (29) 生徒ロッカーの施錠率100%
- (30) 1学期の各授業の遅刻者・欠席者の延べ数をそれぞれ「2学期に50%減」とする
- (31) 進路決定率100%は達成済み。次は「決定した進路満足度」を80%以上とする
- (32) 服務事故防止研修など悉皆研修を除き、15人以上参加の校内研修会が年10回開催
- (33) 「新たな教育スタイル」に関する研究活動への参加10名
- (34) 自立経営推進予算の執行率90%以上
- (35) 各学年保護者会における対面参加率50%以上。欠席した保護者への実施報告・資料提供100%。
- (36) 学校運営連絡協議会に代表生徒の参加を実現。
- (37) コンディションレポート登録100%
- (38) 生徒の定期健康診断受診100%、要治療の受診率50%以上
- (39) 熱中症やアレルギー等による重篤な健康被害の発生ゼロ
- (40) 生徒の生命に関わる事故ゼロ
- (41) 教職員の服務事故ゼロ
- (42) 全ての会議資料はデジタル共有、定型的な会議時間は30分がめやす
- (43) 会議や打ち合わせの書面開催、オンライン開催により対面開催を減らす
- (44) 全員が一斉かつ完全に休憩時間を確保できる等、働き方の改善策を3つ具体化する。
- (45) 勤務時間外の在校時間「月45時間超」となる教員ゼロ
- (46) 全員が週1日は定時退勤
- (47) 全員が年間20日間以上の年休取得、夏季休暇5日間の連続取得
- (48) 全員が長期休業日間に3日以上在宅勤務を実施
- (49) 必異動年限を迎えるまで本校で働きたいと考える教員80%
- (50) 校長・副校長へのマネジメントレビューに登録する職員が70%以上